

校長講話から（11月6日）「後期人権同和教育月間によせて」

はじめに、全校で東日本大震災のテレビCMで流れていた「思いやり算」を視聴しました。

た す（+）… “たすけあうこと” によって、大きな力が発揮されます。

ひ く（-）… “ひきうけること” によって、仲間との喜びがわきます。

かける（×）… “声をかけること” によって、心が一つになります。

わ る（÷）… “いたわること” によって、心が和みます。

※「それは、人を笑顔にする算数。思いやり算。」



・「+」は、助け合うこと。一人よりも二人、二人よりも三人と、力を合わせ、協力することによって、大きな力が発揮されます。一人ではなかなかできないことも、誰かと力を合わせて助け合うことでうまくできることもあるはずです。一つの目標に向かって力を合わせて取り組んでいきましょう。

・「-」は、引き受けることです。みなさんの周りには、少し大変なことや面倒なことに気づいて自分から行動してくれる人はいませんか。そうすることでみんなのためになり、困っている友達を助けることにつながっていきます。少し大変なことや面倒なことを自分から引き受けられる人になれるといいですね。

・「×」は、声をかけることです。相手の気持ちを考えて「元気を出して」「大丈夫？」など声をかけ合うことで、勇気をもらったり、励まされる友達がいたりするはずです。声をかけられた人はもちろん、声をかけた本人も笑顔になり人間関係が深まるはずです。

・「÷」は、分け合うことです。友達と喜びや 悲しみを分かち合うことで、うれしさや楽しさは何十倍に、悲しさやつらさは何十分の一になることでしょう。そのような経験を積み重ねながら、親友に変わっていくのかもしれない。



・小さな優しさは、人に笑顔を与えます。心配りや心配りが人の気持ちを通じさせます。人に対する思いやりの心は、わたしたちが生きている限りずっと学ぶべきものです。そして行動に移すべきことだと思います。この「思いやり算」の心で、相手の立場に立ち、考えて行動できる人になってほしいと思います…。

・では反対に、よりよい集団生活をおくるために、やってはいけないことはどんなことでしょうか。すこし時間をとるので、周りの人と話してみてください。

まとめ



最後に…一人ひとりがお互いの人格を認めあい、自分も他人も尊重できるようになるといいですね。ぜひ「思いやり算」の心で、楽しい学校生活が送れるようにしましょう。そのためにしっかり人権同和教育月間で勉強してください。

各学年の人権同和教育

1年生

部落差別の歴史的背景（部落史）を学ぶことで、不当な差別であることを知る。

1年生は、部落差別の起こりや、ケガレ意識と差別について学びました。そして、鎌倉時代の僧侶である一遍上人（時宗の開祖）の生き方から、誰にでも平等に接する心を学びました。

【生徒の感想から】

- 今でも差別があるのはなぜか疑問に思った。
- 理不尽過ぎると思った。 ・ もっと詳しく勉強したいです。
- まずは、差別に対する正しい知識をもつことが大切だと思う。差別してしまうのは、正しい知識がもてていないからだと思う。
- 今までの自分を振り返ると、少し差別したことがあるので、これからはしないようにしたい。
- 一人一人が人の気持ちを考えて行動することが差別をなくす一歩だと思った。
- 自分がやられて嫌だと思うことは、絶対に人にはしてはいけないことだと思った。



人権同和教育の風景

2年生

水平社の創立と共に、差別と闘ってきた人々の生き方から学ぶ。

2年生は、差別と闘い、水平社創設の中心となった西光万吉の生き方や、水平社宣言に込められた思いについて学びました。

【生徒の感想から】

- 自分たちが行動しなければ、何も変わらないと思った。
- もし、これから差別ともっと向き合わなければいけなくなった時、この学習で学んだことを心にとめて行動しようと思った。
- 水平社宣言の最後にある力強い一文を読んだとき、部落差別によって傷つき、苦しんでいる人々の大きな叫び声を感じました。
- 水平社宣言に「人の世に熱あれ、人間に光あれ」という言葉があります。私は、この言葉を聞いて、すべての人に感謝をし、尊敬しなくてはならないと思いました。
- 差別をなくすには、私たち一人一人が「正しい理解、お互いを尊重する、差別をしない・させない」など、考えて行動していくことが大切だと思った。



荊冠旗（けいかんき）

3年生

結婚差別など、現在もなお残る部落差別の実態を学び、部落差別が我々一人一人の課題と受け止め、差別解消に向け社会に出た時にどのように行動したらよいかを学ぶ。

3年生は、結婚差別をテーマにした「ドキュメンタリー結婚」を視聴し、今もなお残る部落差別の実態について学びました。そして、この映像の制作に携わった野沢喜代さん（元 SBC ディレクター）にご講演をしていただきました。

【野沢喜代さんのお話】

- ・部落差別を自分の言葉で語れるようになってほしい。
- ・なぜ「ドキュメンタリー」を入れたのか。事実を伝えることが一番人の心に落ちるからである。
- ・部落差別は、日本国民として全員の問題である。だからこそ「関係ない」ことはない。自分事として捉え、関心をもってもらいたい。
- ・正しい知識を身につけてほしい。正しい知識があなたを守ってくれる。また、差別に負けない強い人間になってほしい。強い人間になるためには、正しい知識が必要である。



講師の野沢喜代さん

【生徒の感想から】

- ・差別について正しい知識をもち、関心をもつことが大切だと思った。
- ・差別はよくないからなくそうと思っていたけど、差別をしていた事実を正面から受けとめ、一人一人が差別について考えることが大切だと思いました。
- ・私たちにできることは、他の人たちに部落差別のことを伝えていくことだと考えました。他人事と思わないで、自分の事と思えば、これから差別が起きることはないと思いました。

以前、私のクラスにいじめがありました。いじめをなくすため、「いじめを絶対に許さない」という思いで必死に人権教育を行いました。その結果、なんとかクラスからいじめはなくなりました。このように人権教育に力を注いできた私は、決して人を差別することはないと思っていました。

そんなある日、障がい者の施設で研修を行う機会がありました。施設に入った瞬間、入所の方が私に抱きついてきました。驚いたのと同時に「気持ち悪い」と思ってしまいました。明らかにその時の感情は「差別の心」でした。差別する人とは対極にいると思っていた自分が、実は「差別する側の人」だったのです。

誰の中にも「差別する心」はあると思います。だからこそ、自分の中にある差別する心に気付き、弱い自分と闘っていくことが差別をなくす第一歩だと考えるようになりました。

教 頭

1 学年 j ob セミナー

11 月 7 日（木）に 12 の事業所の方を講師にお招きして、「job セミナー」を行いました。生徒たちは、12 講座の中から 3 つを選択して、お話や体験を行いました。

1	小林果樹園	7	平野保育園
2	宮本忠長建設設計事務所	8	マリア幼稚園
3	新光電気工業	9	中野消防署
4	長野トヨタ自動車	10	東山クリーンセンター
5	綿半ホームエイド中野店	11	北信ケーブルテレビ
6	北信総合病院	12	北信ローカル



講師の方々と対面



講座の様子



消防服を着用して

一人一人が質問を事前に考えました。当日は、積極的に講師の方に質問し、充実した会になりました。将来の職業選択に役立つ経験をさせてもらいました。

3 学年総合的な学習の発表

11 月 8 日（金）に、3 年生による総合的な学習の発表が行われました。

3 年生は、「中野市から始める SDGs（持続可能な開発目標） ～私は何をする？何ができる～」と題して、8 つの講座に分かれて活動し、その成果を発表しました。



発表を終えての集合写真

8つの講座と発表内容について

講座名	内 容
Project R 中野平から発信する「R」	中野市にはリサイクルやリユースに関わる会社がいくつあるか知っていますか。中野市で「R」に関わる会社にアンケート調査を行いました。また、最終処分場を持つ中野市のゴミの課題を知っていますか。あなたの分別は正しいですか？実際にゴミ処理とリサイクルしている企業を見学して学んだことを報告しました。
Nakahei de Sweets Vol.2	「笑顔・元気・幸せあふれる中野市に!!」をコンセプトに中野市の特産のフルーツを使ったどら焼きの考案と販売を行いました。販売までにいくつものハードルを越えてきた活動の様子を報告しました。
Diver City ～多様性が認められる街を目指して～	多様性を認める社会の実現には、どのような視点が必要か。実際に海外に住んでいる方へのインタビューや市役所の講師の方から教えていただいたことから考えた事を報告しました。
チーム オムニキン	講師の方をお呼びして、アダプテッドスポーツを実際に体験しました。学習を進めていくうちに、誰でも楽しめる卓球バレーというスポーツを知り、文化祭の運動会種目として全校に提案しました。私たちの活動の様子を報告しました。
フードロスをなくそう	学校・家庭・地域のフードロスの現状を調査し、私たちに何ができるかを考えてきました。フードロスの現状やフードロスをなくすために私たちが実践できることを提案しました。
中野市をk w s k	私たちが暮らしている中野市にはどんな文化財があるのか、地域の遺跡や自然、歴史について調べたり、講師の方からお話を聞いたりしました。また、中野市の伝統文化の一つである土人形について資料館で見学や絵付け体験をしました。街づくりの観点から、市の文化財、伝統文化をどのように活用できそうか提案しました。
ウッドカット	木を切ることはむしろ森林破壊につながるのでは・・・？当初抱いていた疑問が解決。間伐を通してより豊かな環境を維持していくための取り組みについて学んだことを報告しました。
Protect Water 中野市の水を綺麗に	私たちが住んでいる中野市の川は、綺麗なのでしょうか。水生生物の観察や薬品を使った水質調査、河川のゴミ拾い活動を行う中で考えた、中野市の水環境から海洋問題について報告しました。

令和7年度生徒会新三役決定

11月21日（木）に生徒会立会演説会・選挙が行われました。また、翌日には決選投票が行われ、新生徒会の会長、副会長が決まりました。

そこで、3人の方に新生徒会への抱負を語ってもらいました。

【生徒会長・春原末華子さん】

来年度の生徒会長になりました、2年3組の春原末華子です。

私は、全校一人一人が生徒会を創り上げ、絆を深め、笑顔の絶えない中野平中学校を目指します。また、挨拶溢れる学校にしたいと思います。挨拶をすることにより、気持ちよく学校生活を過ごせるからです。

更に生徒会長として、全校のみなさんの見本となり、全校一人一人の意見を大切にしていき、全校のみなさんが楽しい学校生活が送れるように努力していきます。

みなさんと一緒に、よりよい生徒会を創っていきましょう。

【副会長・小池駿平さん】

生徒会副会長になりました、小池駿平です。

私は副会長として、生徒会長を支え、生徒の声を生徒会に反映していきます。そして、全校が充実し、楽しい学校生活を送れるように努力します。

みなさんの期待に応えられるように、一生懸命頑張りますので、よろしくお願いします。

今回の生徒会選挙に向けて、2年生から9名の生徒が会長、副会長へ立候補してくれました。そして、これからの中野平の将来に向けて一生懸命考え、教室訪問や全校の前で演説を堂々と発表してくれました。選挙ですから、選ばれるのは会長1名、副会長2名ですが、立候補してくれたみなさんも、更に中野平中学校が安心して、居心地のよい学校になるように力を合わせて創っていきましょう。

【副会長・塚田憲生さん】

私は、全校一人一人が日々の学校生活を大切にし、思いやりの心をもち、気持ちよく過ごせる中野平を目指します。そのために返礼の定着や、「感謝の木」をやってみたいです。



右から 副会長・塚田 憲生さん
会 長・春原 末華子さん
副会長・小池 駿平さん

いよいよ3年生から2年生へ生徒会のバトンが渡されます。2年生はそのバトンをしっかり受け取ってください。そして3年生は、2年生を温かく見守り、1年生は力強く支えていきましょう。